

建築人

2026

9

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.747





このページの新企画「建築人x写真人」の掲載希望建築物を募集しています。
本企画は会員が手がけた建築作品を、写真家MOAIによる独自の視点と表現で、
どのように“料理”されるかを楽しんでいただく企画です。
写真家MOAIの作風は、ハイコントラストや強めの色彩によって日常を非日常へと変換します。
建築が竣工写真などとは大きく印象が異なる“新しい姿”に生まれ変わることを
楽しんで頂ける方を歓迎いたします。
皆さまが関わられた建築が、写真家の視点で新たな物語を紡いでいきます。
会員の皆さまの応募をお待ちしています。

「MOAIの独言」

日々に引かれた光景やモノをスマホで撮影、加工した作品
私が惹かれるのは
蓄積された時間が感じられるモノや光景
自然の造形物
今その時しかない光
固定概念にとらわれず自由に感じてください

Photographer MOAI

岩手県盛岡市出身

1985年大阪芸術大学卒

同年広告企画制作会社にカメラマンとして入社

あらゆる業種業態のクライアントの撮影に携わる

1996年フリーランスとなりPhoto Office MOAI設立

大阪を拠点に広告写真を中心に活動中

建築人

2026.09 No.747

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「鶴橋の立ち寄り場 ヨルン」 2025年

第69回 大阪建築コンクール 大阪府知事賞部門 奨励賞 受賞作品
設計：YAP+大阪公立大学建築デザイン研究室
施工：YAP (施工協力：豊城ウェルハウス+大阪公立大学建築デザイン研究室)
撮影：KENTA HASEGAWA

大阪・鶴橋に建つ築103年の二軒長屋の一軒を、地域に開かれた「立ち寄り場」へ改修したプロジェクトである。ショールームやギャラリーなど、用途を横断しながら使われる。元は三軒長屋で、北側一軒の解体によって都市に顕わになった界壁を新たなファサードとして捉え直し、柱を残して再設計。前面道路や隣地と連続する半屋外空間をつくり、長屋の内部にあった人の営みをまちへと開いた。

2 MOAIの独言

4 Gallery 建築作品紹介

「ホソカワミクロン コスメティックセンター」

設計：大林組

施工：大林組

「伊予銀行波止浜支店」

設計：日建設計

施工：清水建設

「徳田医院」

設計：一級建築士事務所 STUDIO MONAKA

施工：中尾木材工業

「Where Landscape Becomes Living」

設計：マニエラ建築設計事務所

施工：ケイ・アイ・エス

8 動静レポート

9 Topics

10 News of Note

東海道五拾七継を巡る 第4回守口まち歩き

【小学生向けワークショップ「まちをつくろう2026」】報告

12 Information

14 記憶の建築

「マースクビル (現・KRCビル)」 1973年

レーモンドが横浜に遺した最後のビル / 松隈 洋

建築人 No.747 2026年9月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：松下典央

委員長：武藤優哉

編集人：昇 勇 石貫方子 岩岸克浩

荻窪伸彦 笠松哲司 河野 学

大松俊祐 中北 力 春岡須磨子

三谷勝章 村上栄司 山本恭史

事務局：辻本和人 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和8年9月1日発行

発行人：会長／上田茂久

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961



コスメティックセンターは、ホソカワミクロンのマテリアル事業の「研究開発」と「営業・販売」機能を集約する中核拠点として整備された施設である。ファサードは、敷地内の他の建物と同素材のサンドイッチパネルにてボリュームを軽やかに浮かせる構成とし、敷地内の調和を図りつつ、シンプルで清潔感のある佇まいとした。また、研究活動を“見える化”した実験室、交流を促す木質化空間などをちりばめ、自然な交流が生まれ、新たな発想や価値が生まれる環境とした。さらに、事業主のサステナビリティ経営の推進に応え、環境配慮技術を取り入れてZEB認証を取得し、脱炭素社会の実現を見据えた持続可能な施設とした。

所在地：大阪府枚方市
用途：事務所・研究所
竣工：2025.10
構造規模：鉄骨造
地上2階
敷地面積：21,441.43㎡
建築面積：585.49㎡
延床面積：1,127.75㎡
写真：ヴィブラフォト



世界中の船主やオペレーター等VIPを迎える、造船の町今治における伊予銀行の迎賓館的役割を託された支店である。愛媛県産の杉や桧、鉄板、割栗石など地産材や地域を象徴する素材を活用し、日本的な奥行きと陰影に富んだ空間を実現。顧客に木と光を活かした空間や庭園による豊かなおもてなしを提供する。自然採光や地中熱利用換気、高断熱化、高効率設備により、エネルギー消費が基準建物の-112%となる『ZEB』を達成し、木造架構や仕上げの最小化によってホールライフカーボンを57.6%削減することで、地域の魅力発信とカーボンニュートラルという社会課題解決につなげることを目指した。

所在地：愛媛県今治市
用途：銀行の支店
竣工：2026.04
構造規模：鉄筋コンクリート造、木造、鉄骨造 地上1階
敷地面積：1,485.14㎡
建築面積：534.06㎡
延床面積：497.95㎡
写真：伊藤 彰[アイフォ]



滋賀県彦根市稲枝に建つ診療所である。

人は「家と職場(学校)を往復するだけの単調な移動パターン」よりも、「寄り道が多く、移動や行動が多様なパターン」の方が幸福度が高い傾向にあることから、人々の日常に「あえて寄り道したくなる導線」を生み出すことを目指した。

サンゴ礁の「多孔質構造」をモチーフに、診療所の機能を中心とし、周辺に広がる大屋根の軒下に小さなカフェや図書館などを散りばめ、目的がなくてもただ居られる空間を設計。

音楽やラジオ体操などカルチャーを「処方」するアプローチにより、多様な人々がそれぞれの居方で「ただ居る」ことができる場を生み出した。

所在地：滋賀県彦根市

用途：診療所

竣工：2025.01

構造規模：木造

地上2階

敷地面積：1,928.60㎡

建築面積：620.41㎡

延床面積：663.21㎡

写真：八杉和興



下鴨神社の北側に広がる閑静な住宅地に計画した住宅で、北に広がる宝ヶ池の山並みや、ほど近くに望む「妙」の送り火などの豊かな自然環境を暮らしに取り込むことをテーマとした。

周囲との距離感を丁寧に調整しながら、内外が緩やかにつながる住まいを目指している。

外観は杉板型枠コンクリートを基調とし、周囲の風景に静かに溶け込む佇まいとした。

内部には約6.2mの吹抜を設け、梁成930mmの合成梁が大空間を支える。北側の大開口からは山並みを、南側の大開口からは水盤・アウトリビング・中庭を一体的に取り込み、光・風・水が織りなす自然の移ろいを暮らしの中で感じられる空間を実現した。

風景と建築、内と外が緩やかに結びつく住まいである。

所在地：京都市
用途：専用住宅
竣工：2026.07
構造規模：木造
地上2階
敷地面積：390.13㎡
建築面積：194.32㎡
延床面積：307.17㎡
写真：下村写真事務所

動静レポート

会長動静

- 7/28 香港貿易発展局会合
臨時運営会議
- 8/7 賛助企業と会員建築士の親睦を図る納涼・懇親会「交流から生まれる新しい価値」
- 8/10 部分断熱・耐震改修 WG
国際委員会納涼会

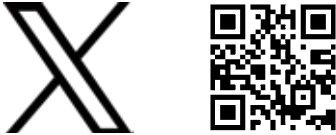
公式 X 及び Instagram 開設のお知らせ

この度、会員の皆様にタイムリーな情報をお届けするため、公式 X および公式 Instagram を開設いたしました。従来より公開しております Facebook とあわせて、本会主催セミナーや見学会のお知らせをはじめ、さまざまな情報を発信してまいりますので、ぜひフォローをお願いします。

Instagram



X



Facebook



賛助企業と会員建築士の親睦を図る納涼・懇親会の開催

8月7日ブライトンベル御堂筋店にて「賛助企業と会員建築士の親睦を図る納涼・懇親会『交流から生まれる新しい価値』」を開催いたしました。
本企画は本会に所属する建築士と賛助会員企業の情報交換を目的に、セミナー形式では質問しづらいことも気軽に質問できる交流の場として、毎年開催しています。今年は募集定員を超える55名に参加いただき、積極的な情報交換が行われました。



令和8年二級建築士、木造建築士学科の試験 合格発表

令和8年二級建築士、木造建築士「学科の試験」の全国合格者が8月24日に発表されました。併せて、公益財団法人建築技術教育普及センターより大阪府分を入手しましたのでお知らせします。

(全国)		
学科試験	二級	木造
実受験者数	16,082 人	370 人
合格者数	6,829 人	237 人
合格率	42.5%	64.1%

(大阪)		
学科試験	二級	木造
実受験者数	1,260 人	42 人
合格者数	603 人	26 人
合格率	47.9%	61.9%

設計製図試験は、二級建築士は9月13日に「商店街に建つ併用住宅（木造3階建て）」、木造建築士は10月11日に「専用住宅（木造）」の各課題で実施されます。合格者の発表は12月3日(木)の予定です。

第6回近畿学生住宅大賞の実施

近畿建築士会協議会が主催し、本会が主管する第6回「近畿学生住宅大賞」を実施します。同賞は近畿圏内の建築系大学、高専、専門学校に在籍する学生個人またはグループ（院生は除く）より、各学校の住宅課題として制作した作品をご応募いただき、社会性、文化性、芸術性の観点で優れたものを表彰し、勉学の励みにしていただくことを目的としたものです。
今回から下記5名が審査員を務めてください。

- ・岩瀬諒子氏（岩瀬諒子設計事務所）
 - ・木内奈津子氏（一級建築士事務所 nua）
 - ・斉藤智士氏（建築設計事務所 SAI 工房）
 - ・新森雄大氏（Niimori Jamison）
 - ・山口陽登氏（YAP）
- 応募期間は、9月1日～9月18日、最終審査及び表彰式は11月14日の予定です。詳細は本会ホームページをご参照ください。



第43回近畿建築祭「奈良大会」

今年度の近畿建築祭は、11月28日に「やまとはくにのまほろば はじまりの地「三輪」で縁むすび」と題し、奈良県桜井市で開催されます。申込期限は10月23日です。詳細は本誌に同封のチラシをご参照ください。なお、2年後の第45回近畿建築祭は本会が主管となり、大阪大会の開催を予定しております。ご協力の程よろしくお願いいたします。



Talk Relay わたしの推し 「犬と暮らすこと」

豆柴、^{いちこ}一子。安倍元総理が襲撃された日に、四国で生まれた。今年で4歳になる。誕生日が来るたびに、少し胸が痛む。えらい日に生まれたもんだよ。色は(白)正式には薄赤。体重は7キロ。ジャパネケネルクラブの認定書はあるが、正式には「豆柴」という犬種はなく、柴だ。「柴」は「小さいもの」を意味するという説もあり、日本犬のなかでも小型の犬を「柴」と呼んだのが始まりともいわれている。一子という名は、姓名判断から名付けた。亡母が字画に凝っていて、子どものころに覚えてしまった。「横関」の「関」と「一」で15画。社会運が良い。呼び名は「イチ」「いっちゃん」だ。たまに「一子」と呼んでも、「誰のことですか?」という感じだ。この社会運を活かして、彼女はすこぶる社交的だ。柴らしからぬ能力を発揮する。フレンドリーで、人



見知りも犬見知りも全くしない。どんどん犬友を作っていく。犬を連れていなければ、誰だかわからないお友達が増えた。朝の散歩は私。夕方は夫の担当だ。一回約40分、1～2キロ。仔犬のころは、もっとよく走った。2キロほど行った先で歩くのを拒否して、抱っこして帰り、飼い主の二の腕を太らせることに貢献した。ガーミンウォッチを装着して出発するのだが、今はほぼ歩いているので、持久走のトレーニングにはほとんど貢献していない。彼女は、木が好きだ。おもちゃでも、場所でも、山が好きだ。飼い主と同じだ。一度、二上山へ連れて行った。登りは良かったのだが、下りは犬用リュックに入れて、夫婦で背負って下りた。飼い主の足腰が鍛えられた。元気でさえいればいい、と育てたので、芸を仕込んでいない。何かしてほしい時は自らお座りをするのに、「おすわり」と言ってもしない。お手もできない。

横関(三木) 万貴子(法制度・鑑定委員会 理事)

でも、食事の後には抱っこをせがむ。そのかわいい顔で、留守番だとわかった時には、じいっと拗ねながら見つめてくる。彼女は、なかなかの美犬だ。夫が見初めた。美人薄命とはよく言ったもので、生まれた日が悪かったのか、生後8か月から突然倒れて気を失い、失禁する、といったことが続いた。不思議な巡り合わせで、二次医療の循環器内科(犬の!)で72時間のホルター心電図を装着し、不整脈とその原因がわかった。心臓にも血液の逆流があり、突然死のリスクを避けるため、ペースメーカーの装着を勧められたが、踏み切れないまま現在に至る。もっと不思議なことに、血液の逆流はほぼなくなり、ほとんど倒れなくなった。この調子なら、手術は回避できるそうだ。「よく4年も生きてくれた」という感謝と、「もう4年も経ったのだ」という驚き。複雑な感情が交錯する。

ココ・シレ ～メーカー紹介～

「ブラシが空間を守り、すべての命が輝く世界を創造」

1962年設立のバーテックは、塗装用の刷毛やブラシを扱う事業から始まった。価格競争の厳しい市場環境の中で、二代目社長は用途開発や新商品開発に注力し、工業用ブラシへと事業領域を広げた。1988年に「金属等の加工時に生じる“バリ”などの厄介な問題をテクノロジーで解決する」という意味を込めて、社名をバーテックに変更し、顧客の課題を解決するソリューションカンパニーとして、歩んで来られた。今回ご紹介する主力製品の一つである防虫用ブラシは、ドアやシャッターの隙間に取り付け、虫の侵入を物理的に防ぐものである。食品工場では異物混入防止、美術館や博物館では文化財や収蔵品を害虫から守るための防虫対策として活用されている。薬剤で虫を駆除するのではなく、そもそも侵入させない構造をつくる点が特徴であり、IPM(総合的防除管理)の考え方とも非常に親和性が

高い、ユニークな商材である。大阪中之島美術館などでも採用されており、収蔵庫やエントランス、飲食施設周辺など、虫の侵入が課題となる場所で活用されている。文化財分野では公益財団法人文化財虫菌害研究所の認定商品となっており、学芸員や防虫・害虫管理関係者間の認知度は高い一方、建築分野ではまだ十分に知られていない。シャッター用ブラシはガイドレールなどの隙間に設置し、スラットの凹凸にブラシがなじみ、隙間を効果的にふさぐ点が特徴である。長尺の開口部では複数本をつなげて使用するが、つなぎ目に隙間ができにくい仕様が特許技術となっている。虫の侵入に困った既存建物への後付け需要が多いが、新築時にシャッター工事の一部として組み込むことも可能であり、設計段階から防虫対策を盛り込むことで、より効果的な導入につながる。バーテックは、防虫ブラシを単なる害虫対策製

松下典央(建築情報委員会)

品としてではなく、人の居住空間と虫の生息空間を適切に分けることで、不要に虫を殺さず共存できる社会を目指すものとして位置づけている。ブラシを通じて「すべての命が輝く世界」をつくるという理念を発信しており、製品開発の根底には社会課題の解決という視点がある。また、データセンター需要の拡大に伴い、空調効率を高めるためにブラシを活用し、冷気と排熱を分けつつ圧力を調整する省エネ技術も展開している。更に、空調の水冷化が進むデータセンター向けに、ポンプユニットの開発にも取り組んでおり、顧客の課題解決から社会課題の解決へと事業の幅を広げている。(本号公告掲載)

■お問合せ先
株式会社バーテック マーケティング部
〒540-6033
大阪府大阪市中央区城見1丁目2-27
クリスタルタワー33階
<https://burrtec.co.jp/>
06-6484-9343

東海道五拾七継を巡る 第4回守口まち歩き ～文禄堤を歩く～

地域まちづくり委員会 北河内地域 石貫方子

地域まちづくり委員会北河内・みしま野地域では、6月6日(土)に守口市と守口門真歴史街道推進協議会にご案内いただき、57番目の宿場町守口宿のまち歩きを行った。守口宿は大坂から2里(約8km)と近く、京から大坂へ行く際は三十石船を使用し、大坂から伏見や京へ向かう際にのみ守口宿を利用するため片宿といわれた。文禄堤跡が残る守口宿部分にのみ街道らしい面影を残している。



橋が架かっている高い部分が文禄堤



文禄堤の淀川側には船着場跡が残る

京阪守口市駅近くに残る文禄堤は、文禄3年(1594年)に豊臣秀吉が淀川の改修工事を命じて建設された堤防道で、淀川が氾濫するのを防止し道路は大坂と京都を結ぶ安定した交通路となった。文禄堤の長さは全長約27kmあったと言われているが度重なる淀川の改修等で堤の多くは姿を消しており、守口に約700mが残る貴重な文化財である。江戸時代初期には文禄堤の上に守口宿が設置され、宿屋、茶屋、商店などが26軒ほど建ち並び、旅人たちはここで休息を取っていたそうで船着場の跡も残っている。守口門真歴史街道推進協議会の歴史文化マップを使いながら、守口市役所近くの下の見附からまち歩きをスタートした。



下の見附



高札場(復原)

守口はこの数年古い建物が失われており、宿場町の面影を残す建物は数少なくなっている。そのような中で昨年オープンしたのが旧



旧徳永家住宅「燈森」

徳永家住宅「燈森(ともしり)」で、守口市が整備を行い地域コミュニティの場として民間による運営で活用するという試みが始まっており、守口市の岡田氏より改修と活用についてご説明いただいた。カフェやブリュワリーがオープンする予定で、屋外には畑がつくられていた。

街道は国道一号線と交差する八島交差点で「枅形」となっており、ここにはかつて大塩平八郎ゆかりの白井家があったが現在はファストフード店になっていて面影は無くなっている。もう一つの枅形のところに難宗寺と盛泉寺という2つの浄土真宗のお寺がある。慶応4年(1968年)に明治新政府の首都を大坂にするか江戸にするかという議論があり大久保利通は大坂遷都を唱えて明治天皇の大坂行幸を決行している。守口では明治天皇は難宗寺に宿泊され、神鏡(八咫鏡)をまつ内侍所が盛泉寺に置かれ、守口は1日だけ日本の首都となった。しかしその後江戸城が無血開城されたことにより東京へ都が遷ることになる。難宗寺では当時の行幸の跡を見学させていただいた。その後明治43年には皇太子(のちの大正天皇)が開通したばかりの京阪電車に乗られて守口を訪れたそう。



難宗寺と明治天皇の玉座、錦の御旗

【小学生向けワークショップ「まちをつくろう2026」】報告

青年女性委員会 浅井駿平

大阪市立住まい情報センター・一般社団法人日本建築学会近畿支部・公益社団法人大阪府建築士会の三社共催による、親と子の都市と建築教室「まちをつくろう」(通称「まちつく」)についてご報告いたします。まちつくは毎年8月の第1土曜・日曜に大阪市立住まい情報センターを会場として開催しており、小学生とその保護者を対象に、段ボールを使ってまちをつくるワークショップです。近畿大学・関西大学・滋賀県立大学・大阪大学など、複数の大学に所属する学生の皆さんが毎年ボランティアスタッフとして協力してくださり、参加者は4チームに分かれてまちづくりに取り組みます。普段関わる機会の少ない建築士と子どもたちが直接ふれあう場としても大切にされています。2日間かけて制作したまちは、最終日に日本建築学会の担当者による講評を経て「まちつく大賞」が選ばれる、恒例の人気企画です。

2026年は、8月1日(土)・2日(日)の2日間にわたって開催しました。今年のテーマは「海の底にまちをつくろう」。会場では4チームに分かれ、参加した30組60名以上の親子と、60名以上の学生・関係者スタッフが一緒になって、海の底にあるまちづくりを楽しみました。夏休み恒例の企画として、毎年人気の高いワークショップになっており、会場には子どもたちの元気な声とアイデアがあふれ、随所で笑顔が見られました。海洋環境という身近ながら奥深いテーマを題材にすることで、まちづくりだけでなく、環境について考えるきっかけにもなればという願いが込められています。

まちつくは「寸劇とスライドによる学習タイム」「スケッチ設計タイム」「工作タイム」「発表・講評タイム」の4つのフェーズで構成されています。学習タイムでは、近畿大学・関西大学の学生スタッフが寸劇やスライドを交えながらまちや海についてわかりやすく解説し、子どもたちはまちがどのような人・モノ・建築で成り立っているかに加え、海の問題や、海上・水中に建てられる建築物についても学びました。普段の生活ではなかなか意識する機会の少ない環境課題について、楽し

みながら学ぶことができました。

続くスケッチタイムでは、チームに分かれた子どもたちがそれぞれ、海の底のまちにつくりたい住宅や店舗などを考え、建物の設計図(スケッチ)に描き起こしました。工作タイムでは、そのスケッチをもとに、保護者やスタッフとともに段ボールを切ったり組み立てたりしながら建物を制作。私たち建築士は、構造に関する知識やノウハウを生かし、子どもたちが思い描いた建物をかたちにできるよう、随所でサポートを行いました。普段は経験できない構造の工夫に関するアドバイスに、子どもたちも興味津々の様子でした。

最後の発表・講評タイムでは、子どもたち一人ひとりが、自ら制作した建物の魅力や工夫した点、頑張ったことを参加者全体の前で発表しました。会場からは大きな拍手が送られ、達成感に満ちた子どもたちの表情が印象的でした。その後、日本建築学会の川辺先生(大阪大学)より各チームのまちについて講評をいただき、授賞式を実施。それぞれのチームの発想やこだわりが高く評価され、今年度の「まちつく大賞」は、全チームに贈られることとなりました。

参加後のアンケートでは、「とてもおもしろかった」との回答が7割以上を占め、多くの参加者の皆さまから好意的なご感想をいただきました。「作ることが楽しかった」「みんなで

手伝い合って1つの作品を完成させられた」「来年もぜひ参加したい」といった声が寄せられ、満足度の高いイベントとなりました。子どもたちのいきいきとした表情や、すばらしい作品の数々も印象的でした。

また私たちにとって「まちつく」は、子どもたちに向けたワークショップにとどまらず、建築士を志す大学生とのネットワークづくりにもつながる貴重な機会と感じています。毎年、多くの学生スタッフが「来年もぜひ参加したい」と話しており、学生たちにとっても貴重な学びの場となっています。今後も、子どもたちの創造力を育むとともに、建築士を目指す学生たちを後押しする場として、まちつくを大切に育てていきたいと思います。来年以降も引き続き継続して実施していきたいと考えています。当企画は建築士会の新会員にとっても関わりやすい事業ですので、ご興味のある方はぜひ青年女性委員会へご参加ください。



▲寸劇の様子



▲スケッチの様子



▲工作の様子



▲発表の様子



▲全体集合写真

建築士会からのお知らせ

既存住宅状況調査技術者講習
新規講習10/28
更新講習9/15、11/12、2/19
CPD新規5単位、更新2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみに認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。令和5年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。

▼新規講習 (DVD)
日時 10/28 (水) 9:30～17:00
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名 (定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込21,450円
郵送申込22,000円

▼更新講習 (DVD)
日時 9/15 (火)、11/12 (木)、2/19 (金)
13:30～17:00
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名 (定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込17,000円
郵送申込17,600円

▼申込 日本建築士会連合会HPよりお申込みください。上記以外にオンライン講習も開催いたします。

令和8年度監理技術者講習
9/18、11/11、1/13、3/19 CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、実務に役立つ情報を提供いたします。
日時 9/18 (金)、11/11 (水)、1/13 (水)、3/19 (金)
各8:55～17:00
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 各回30名 (定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円
申込 日本建築士会連合会HPより

既存木造住宅の耐震診断・改修講習会
(一般診断法)
10/29、11/17、1/29、2/25
CPD各4単位

本講習会は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断・改修の補助を受けることができる技術者の養成を目的としています。2026年1月にテキストの改訂があり、一般診断法の必要耐力および保有する耐力の計算方法が変更されました。過去に受講された方におかれましても本講習を再度受講され、最新の技術を業務に活用されますようご案内いたします。
日時 10/29 (木)、11/17 (火)、1/29 (金)、2/25 (木)
10:00～15:50
会場 大阪府建築健保会館
定員 80名 (定員に達し次第締切)
受講料 会員5,000円 一般9,000円
テキスト代 9,900円

「2025年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」

令和8年度 建築士定期講習
11/19、12/11、1/27、2/10、3/24

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和5年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼日程・会場・定員
11/19 (木) 大阪府建築健保会館 70名
※12/11 (金) 大阪府建築健保会館 70名
1/27 (水) (一社)大阪府建築士事務所協会 会議室 20名
※2/10 (水) 大阪府建築健保会館 70名
3/24 (水) 大阪府建築健保会館 70名
上記すべてDVD講習です。
※の日程：大阪府建築士会が運営
※以外の日程：大阪府建築士事務所協会が運営
注) 各回定員に達し次第、受付を終了します。
時間 9:15～17:00 (各講習日共)

受講料 12,980円 (消費税含。事前入金)
申込 建築技術教育普及センターHPより

もう一度学ぶ タイルの基本
9/9 CPD2単位

本企画は、建築士・設計者として知っておきたいタイルの基礎から、最新の弾性接着剤張り工法、さらには定期報告制度に関連する剥離防止対策まで、実務に直結する知識を習得していただくための講習会です。この機会に是非ご参加ください。

日時 9/9 (水) 集合 17:30
ショールーム見学 17:30～18:00
講習会 18:00～19:30
会場 INAXタイルコンサルティングルーム大阪
定員 20名 (申し込み先着順)
参加費 会員1,000円 一般2,000円

建築紛争セミナー11
建築紛争は最初の見立てが重要！
～初動対応における現地調査のポイント～
9/18 CPD2単位予定

本会は、大阪弁護士会と共催で、「建築紛争セミナー」を毎年開催しております。今回は、建築紛争における初動の現地調査の重要性について、基調講演および弁護士・建築士によるシンポジウムで説明いたします。実務に役立つ内容になりますので、是非ご参加ください。

日時 9/18 (金) 18:00～20:00
会場 大阪弁護士会館 1001・1002号室
(大阪市北区西天満1-12-5)
定員 40名
参加費 無料

朝鮮通信使がもたらした
日本と朝鮮国の平和
9/25 CPD1単位予定

朝鮮通信使をご存じですか？
日本には古く、大陸から多くの文化や宗教、建築などがもたらされました。当時は、ほとんどが朝鮮を経由しての経路です。その後、



Informationの詳細及び申込みは大阪府建築士会ホームページに掲載しています。
http://www.aba-osakafu.or.jp/ メール info@aba-osakafu.or.jp
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

朝鮮通信使という使節団が日本に来ています。そのあまり知られていない歴史をわかりやすく解説いただきます。

日時 9/25(金) 18:30~20:00
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名
参加費 会員1,000円 一般2,000円

建築士の日 記念事業 建築士と学ぶDIY入門 ～暮らしに彩りを添える～ 9/26

今年度の建築士の日記念事業は「DIY」をテーマに開催いたします。建築士が「安全で適切なDIYの基礎知識」をお伝えするセミナーとタイルを用いたDIYワークショップを実施し、安全かつ適切にDIYを楽しむための知識と技術を身に付けられる場とします。

日時 9/26(土) 14:00~16:00
会場 β本町橋(ベータ本町橋)
2階レンタルスペース「ラボ」
定員 30名
参加費 無料

第69回大阪建築コンクール 受賞者講演会+トークセッション 10/2 CPD2単位予定

本コンクールは、建築士と社会との関わりを通じて建築作品を評価し、そのすぐれた実績をたたえ、建築作品の設計者を表彰するものです。第69回は5作品が受賞し、これを記念して受賞者講演会を開催いたします。受賞作品のお話はもちろん、建築に対するそれぞれの思いを語っていただきます。

日時 10/2(金) 18:30~20:45
会場 大阪工業大学梅田キャンパス203
(大阪市北区茶屋町1-45)
参加費 無料(申込不要)

令和8年度地域文化遺産のガイド人材育成講座 「まちを読み解く、大阪を伝える」

10/3、11/7、12/20、1/23
CPD各4単位

歴史的建造物やまちなみ、土木遺産など、地域に残る文化遺産を読み解き、その魅力を伝え、活かす方法を学ぶ講座です。

専門家による座学とまち歩きを通して、大阪の歴史や地域の特性への理解を深め、文化遺産を観光やまちづくりにつなげる観光コンテンツの企画にも取り組みます。大阪のまちを歩き、その歴史と文化に触れながら、文化遺産の魅力を伝える方法を一緒に考えてみませんか。

- 第1回 10/3(土)
- 文化遺産を地域の魅力へー観光・まちづくりにおける可能性ー(和泉大樹氏)
 - 歴史と土木遺産をめぐるフィールドワーク(船越幹氏)
- 第2回 11/7(土)
- ガイド事業の組立・観光コンテンツタリフの作成(久保智美氏)
 - 近代建築をめぐるフィールドワーク(倉方俊輔氏)

- 第3回 12/20(日)
- 地域の歴史と無形文化をめぐるフィールドワーク(陸奥賢氏)
 - 大阪の歴史を面白がるー都市の成り立ちと地域文化遺産ー(大澤研一氏)

- 第4回 1/23(土)
- 観光コンテンツタリフの発表・講評(天野啓太氏・久保智美氏)
 - まち歩きの楽しみ方(天野啓太氏)
- 時間 各回13:00~17:00
会場 大阪倶楽部・綿業会館・NEXT21
定員 20名
受講料 全4回12,000円 ※連続受講
詳細・お申込みは建築士会HPに掲載

令和8年度 はじめよう、文化財の活用 10/31、11/29、12/13

歴史的建造物という特別な空間で、伝統文化などを体験しながら、「ユニークベニュー」の魅力を知っていただく講座です。毎回異なる

国登録有形文化財などを会場に、文化財所有者から保存・活用のお話を伺い、建物見学やまち歩き、ワークショップなどを行います。

歴史的建造物やまちなみ、そして伝統文化を楽しみながら、「ユニークベニュー」の魅力に触れてみませんか。

- 第1回 10/31(土)
「能の入り口に入ろう」
国登録文化財 川中家住宅(東大阪市)
- 第2回 11/29(日)
「文楽人形でほっと一息」
市指定文化財 旧一津屋公会堂(摂津市)
- 第3回 12/13(日)
「青龍庭を眺めながら楽しむ和菓子づくり」
国史跡・国登録文化財 西山氏庭園・西山家住宅(豊中市)

日本建築士会連合会会報誌「建築士」 の発行・発送方法の変更予定

- 本会では現在、連合会会報誌「建築士」を本会会報誌「建築人」に同封し、正会員・準会員の皆様へ発送していますが、「建築士」は2027年1月以降、紙媒体とWEB配信を組み合わせたハイブリッド方式へ変更される予定です。なお、「建築人」の発行・発送方法に変更はありません。
- 「建築士」の紙媒体での発行は奇数月のみとなります。奇数月には紙媒体に加え会員限定のデジタルツイン版が公開され、偶数月にはWEB上でデジタル版が公開されるため、情報発信はこれまでどおり毎月継続されます。
- 閲覧方法等の詳細は、連合会で決定次第お知らせします。

レーモンドが横浜に遺した最後のビル

マースビル（現・KRCビル） 一九七三年

文・写真 松隈 洋〔神奈川県建築学部教授〕

今年二〇二六年は、戦前戦後の日本の建築界に大きな足跡を残し、吉村順三、前川國男、ジョージ・ナカシマ、増沢洵ら、彼に師事した弟子にとどまらず、多くの日本人建築家に影響を与えたアントニン・レーモンド（一八八八〜一九七六年）の没後五〇年の節目にあたる。そのことが引き寄せた奇遇の縁なのか、幸運な出会いと新たな発見があった。

今春、東京のギャラリーエークワッドで、「ノエミ・レーモンドの建築と

意匠―和で紡ぐモダンライフ」と題する建築展が開催された。これは、今までほとんど知られていなかった妻のノエミ・レーモンド（一八八九〜一九八〇年）の仕事の全体像をはじめで紹介し、再評価する画期的な試みだった。その会期中の四月二十四日、「アントニン&ノエミ・レーモンド建築の保存と継承」をテーマにトークショーが催され、筆者もパネリストの一人として登壇した。終了後、小説家の内山純さんと担当編集者に

突然声をかけられたのだ。初対面だった。聞けば、レーモンドの建築に触れた書下しの小説が近く発刊されるという。後日、その著書『レーモンドさんの小さな家』（角川文庫）がサイン入りで送られてきた。

表紙カバーには、レーモンドの軽井沢の新スタジオ（一九六三年）を描いた升ノ内朝子のほのぼのとしたイラストが使われ、扉ページには、彼の言葉「自然は人工よりも美しい。単純さと軽快さは複雑なものよりも美しい」が綴られている。そして、巻末には、参考文献として、いずれも三沢浩訳の『自伝アントニン・レーモンド』と『私と日本建築』、三沢浩の『アントニン・レーモンドの建築』などの書籍とともに、二〇〇七年、筆者も企画と論考執筆に携わり、神奈川県立近代美術館で開催された建築展『建築と暮らしの手づくりモダン―アントニン&ノエミ・レーモンド』のカタログも挙げられていた。小説を読み進めると、さまざまな人物が次々と登場し、新スタジオに始まり、東京タワー近くに建つ木造の簡素な聖オルバン教会（一九五六年）や、打放しコンクリートの壁と天井、スリットから注ぐ自然光によって凜とした静謐な空間に包まれた目黒の聖アンセルモ教会（一九五六年）、高崎の群馬音楽センター（一九六一年）など、レーモンドの代表作に接する人々の心象風景が連歌のように綴られていく。けれども、もともとペー지를割かれた三章の「海と空がきらめくビルディング」に出てくる「デンマークの大手海運企業『マースビル』の横浜支社」だったという「マースビル」は、聞いたことも見

たこともない建物だった。しかも、建っている場所が、横浜のJR根岸線関内駅近くの「中区役所のある通りのビル」と書かれているではないか。これには驚いた。

たしかに、地図を見ると、現在「KRCビル」と呼ばれるその建物は、本連載の二〇二四年八月号で取り上げた前川國男の横浜市中区役所（一九八三年）と同じ道路に面する隣の街区にあり、百メートルほどしか離れていないのだ。二〇〇七年のレーモンド展カタログにも、彼の日本での最後の仕事として、「マースビル・ビル／横浜」と記載されていた。しかし、残念ながら、建築雑誌には発表されず、知られざるレーモンド建築として静かに時を重ねて来たのだろう。それにしても、数えきれないほどその近くを訪れていたのに、まさかレーモンドと前川の建築が隣接した街区に仲良く並んで建っていたとは……。時計の針を巻き戻して、生前の前川に伝えてみたくなった。考えてみれば、関内駅の周辺には、村野藤吾の旧・横浜市庁舎（一九五九年）、坂倉準三のシルク・センター（一九五九年）と神奈川県新庁舎（一九六六年）、浦辺鎮太郎の横浜開港資料館（一九八一年）など、戦後の建築史を飾る街角の名建築が歩ける場所に点在する。今回、この小説に教えられて、同じ地区に、レーモンドが日本で最後に手がけたオフィスビルのあることに気づかされたのだ。筆者にとって饒幸ともいえる出来事である。さっそく現地を訪れた。そこには、「九階建ての中規模のそのビルは、正面と北東側の壁が一面ガラス張りになっている。窓を区切る黒

い枠はあるが細くて目立たないので、壁面全体が巨大な鏡であるかのようだ」と記されたとおり、周囲の樹木を引き立てて、KRCビルがスクツとした清新な姿で輝いていた。また、窓枠など細部のディテールと限られた素材の扱い方、立面のスケール感やプロポーションの良さに支えられているからに違いない。エントランス・ロビーを含め、みずみずしい透明感が漂う。そして、周囲のビルにはない独特な品格が好まれたのだろう。一階には、職人手づくりの革製品のブランド・ショップ土屋鞆製造所とアウトドア・スポーツの有名店パタゴニアが入っている。こうして、このビルには、登場人物の青年が、「ほっとできる場所……僕は、レーモンドさんの建築物にそんな特別感を持っているんです。彼の建物を見ていいよ」とあなたにまで、ここにいうような気がして」と語るそのままの穏やかな空気が流れていたのである。

小説の終わりに、再び、軽井沢の新スタジオが出てくるのだが、ここで不思議なことに、現実の世界へと話はつながっていく。新スタジオは、レーモンド最後の弟子の一人だった北澤興一（一九三七〜二〇二四年）が貴重なスケッチや写真などの資料と共に譲り受け、大切に維持されてきた建物であり、現在は子息の司郎氏が受け継いでいる。実は、この秋、軽井沢の脇田美術館で、それらを用いたレーモンドの展覧会の開催が予定されているのだ。ぜひこの小説を手にとってほしい。きっとレーモンドの建築を訪ね歩きたくなくなるはずだ。



東側からの外観全景



一階エントランス・ロビー

異物
混入

飛来虫

歩行虫

シャッターブラシをつける

虫が減る!!

こんなに
減った!



ワラジムシ・
ゲジの侵入数

約99%
削減



飛翔虫

約56%
削減



害虫をブロック!!

シャッターブラシ設置条件

- 業種：医療用、精密機器などの合成樹脂製品の製造
- シャッターサイズ：W3000×H4000
- 環境：草地が近くにあるため春先が虫が増える。
- 捕虫トラップはシャッター付近の壁に設置
- シャッター種類：電動スチールシャッター
- 虫 ■ 飛翔虫：ユスリカ / キノコバエ / チョウバエetc ■ 歩行虫：ワラジムシ / ゲジ

効果の差は歴然!



シャッターブラシをつける前と後では、こんなにも違う!!

シャッターの隙間を防いで
虫を減らす!!



パーシャットII

ブラシで虫の侵入を物理的に防止!!
効果的な防虫対策を。

虫を防いで、
クレーム減少

生産性が向上

薬剤による
環境負荷を
低減



ブラシで世界を変えよう

BURRTEC®

■ 本社 〒534-0027 大阪府大阪市中央区城見1丁目2-27
クリスタルタワー 33階
TEL : 06-6484-9343 FAX : 06-6484-9342

カットサンプル
請求はこちら



詳しい情報はこちら

バーテック パーシャットII





西側外観：玄関扉を外し、外壁の一部を解体し、内側に新たに壁と建具を設けて、1階平面の外周部を半屋外空間とした。



一階内観：ショールーム兼立ち寄り場。吹き抜けを介して二階とつながり、建具を開けば外のような内部に。向かいのお好み焼き屋さんがよく見える。